

会 議 録

会 議 名 (付属機関等名)	令和3年度 川西市介護保険運営協議会 生活支援体制整備部会(第10回第1層協議体兼地域ケア推進会議)		
事務局(担当課)	福祉部 介護保険課		
開催日時	令和3年12月17日(金)15:40~17:00		
開催場所	川西市役所 2階 202会議室		
出席者	委 員	吉岡 健一、細見 幸己、田口 巳義、清水 和恵、岡 留美 井口 尚子、吉川 泰光、成徳 明伸、片岡 大雅、元山 純一 西本 裕子、細海 里恵、貞松 喜代美	
	事 務 局	介護保険課 福丸課長、松永課長補佐、山本主査、實熊主事	
傍聴の可否	可	傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の 場合は、その理由			
会 議 次 第	1. 開会 2. 協議事項 地域の特徴から見える第1層協議体の多様な主体において 全市的に取り組むべき人材確保について 3. その他 4. 閉会		
会 議 結 果	別紙審議経過のとおり		

審 議 経 過

事務局	<p>ただいまから、令和3年度川西市介護保険運営協議会「生活支援体制整備部会」第10回第1層協議体兼地域ケア推進会議を開会いたします。</p> <p>私は、本日司会を務めます福祉部介護保険課課長補佐の松永でございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>委員の皆さま方には何かとご多忙のところ、ご参集を賜り誠にありがとうございます。</p> <p>まず、はじめに部会員の交代についてご報告いたします。</p> <p>この度、新たに岡 留美委員、井口 尚子委員にご就任いただいております。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、協議に入っていただきますので、以降の議事進行は、生活支援コーディネーターの細海さんをお願いします。</p>
生活支援 コーディネーター (以下、第 1層 SC)	<p>本日も皆さまの活発な意見交換、ご協議を、ぜひともよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、まず、委員の出席について、確認させていただきます。</p> <p>委員の出席については、委員14名のうち、本日ご出席をいただいておりますのは、13名でございます。</p> <p>よって、川西市介護保険運営協議会規則第3条第4項の規定に基づき本日の部会は成立しております。</p> <p>傍聴の方は、いらっしゃいますか。</p>
事務局	<p>傍聴の方はお越しではありません。</p>
第1層 SC	<p>では、議事に入ります前に、事務局より資料の確認をお願いいたします。</p>
事務局	<p>それでは、資料の確認をさせていただきます。</p> <p>本日は当日配付資料として、「生活支援体制整備部会次第」「委員名簿」「これから取り組んでいくべき人材確保について」の3点を机上にお配りしております。</p> <p>皆さま、資料はお揃いでしょうか。</p>
第1層 SC	<p>それでは次第に沿って始めさせていただきます。</p> <p>本日、お配りさせていただいております、「これから取り組んでいくべき人材確保について」をご覧ください。</p> <p>前回の生活支援体制整備部会の中で、地域ごとに人材確保の課題が異なるのではないか、地域ごとの課題を集めた中で、多くあがった課題に取り組む必要があるのではないかをご協議いただきました。</p> <p>第2層生活支援コーディネーターが地域ごとに把握した課題をまとめたものが、表の右側に「第2層圏域ごとの課題をふまえた人材確保について」としてお示ししており、①として必要な取組み、②として具体的な取組みとしてまとめているので、読み上げさせていただきます。</p> <p>「第2層圏域ごとの課題をふまえた人材確保について」と題しまして、必要な取組みについて、1番目として、「ボランティア活動が広がる仕組みづくり」です。それに対して</p>

具体的な取組みとして、「活動に係る経費への支援」「ボランティアポイント制度などのきっかけづくり」としております。

次に、「人材バンク的な仕組みづくり」に対しての具体的な取組みとして、「シルバー人材センター、ボランティア活動センターなど、人材バンク的な機能を有する機関の横断的な取組みや機能強化」としております。

次に、「啓発活動の強化」に対する具体的な取組みとして、「地域活動への参加が社会参加であり、最も効果的な介護予防となることについての啓発」「若い世代の理解者、活動者を増やすための福祉教育の充実」「保健施策(健康づくりと介護予防)との一体的な推進」としております。

最後に、「値域活動の魅力づくり」に対する具体的な取組みとして、「人材不足を福祉の課題ととらえるのではなく、まちづくりの課題ととらえることによる多様で多角的な視点の導入」としております。

続いて、表の左側についてご説明させていただきます。

これは、第8期介護保険事業計画策定に伴う調査結果に基づく分析を取りまとめたものです。こちらも読み上げさせていただきます。

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果に基づく分析と題しまして、調査結果ですが、「地域活動への支援者としての参加意向は、「参加したくない」が62.8%を占めている。これは、参加者としての参加意向より25.8ポイント低い。」「地域活動への参加者としての参加意向は、参加したい方が半数以上となっている一方で、「既に参加している」と回答した人が5.8%にとどまっている。」という調査結果となっております。

これを分析した結果、「地域活動へ参加するにあたって、何かしらの役割を担うことに対してプレッシャーに感じる人が多いことがうかがえる。」「参加したい人の割合に対して、既に参加している人の割合がかなり低いことから、地域活動の魅力をさらに周知・啓発していく必要がある。」「有償のボランティア活動(概ね実費程度)の導入など、支援者になるための動機付け(メリット)を検討していく必要がある。」ということがわかりました。

以上の結果から、第1層協議体における人材確保に向けた考え方として、最初から支援者やさらに責任の重い役員を増やしていくことは難しいため、まずは活動を知ってもらい、参加してもらうことを通じて徐々に支援者へ引き入れていくことが必要なのではないかと考えております。

ですので、本日の協議体では、人材確保に向けて「参加者を増やしていく」方向で協議していきたいと考えております。

部会長

第1層 SC から先日の部会での協議をふまえた人材確保についての報告がありました。これから人材確保に向けてまずは「参加者を増やしていく」という方向性で委員の皆さまよろしいでしょうか。

部会員

今回から参加させていただくのでわかっていないのですが、この部会は「何を」「いつまでに」決める会議なのでしょうか。

何か目的があって、それに向かって進めているという認識でよろしいでしょうか。

第1層 SC

本会議は、「何を」「いつまでに」と決めて協議をしておりません。

協議をしていく中で、できることを進めていける時期になったら実施していくというやり方をしておりますので、まず「何をするか」を協議するという形で進めております。

部会員

例えば、介護保険では介護保険事業計画があるように、理想を掲げて、理想を語る理念を持って、理念を具体化する施策があつて、施策を実現するための事業があり、その事業を運営するための人員確保の分野を担っている生活支援体制整備があるとすると、そういう制度的なものがあると思ったので、お聞きしております。

第1層 SC

おっしゃるとおりですが、まだ具体的にどういったことをすればいいかという施策が定まっていない状況です。

人材確保について協議をするということが決まっていますので、今後はそこからどのようなことができるかを皆さまと協議し、具体的に内容が決まれば、実施時期を検討するという流れとなっております。

部会員

承知しました。そういった理解で参加させていただきます。

部会長

この部会は、身近なところからできることをやっていくことを協議しております。

私も前回からの参加ですが、今まで回を重ねてきての議題です。過去をよく知っている委員については、過去の流れを含んで発言していただき、新しく参加して頂いている委員については、新たな視点で意見を発言していただきたいと思っております。

ですので、今回については、「参加者を増やしていく」という方向で進めていきたいと思いますが、それで良いと思っていらっしゃる方は挙手をお願いいたします。

(賛成者挙手)

部会長

挙手多数と認めます。

第1層 SC

テーマが大きく、どう考えていくのかがわかりづらいかと思います。

実は、部会長と事前にご相談しており、少人数のグループに分かれてご協議していただこうと考えておりました。

グループごとに参加者の対象を絞ろうと考えておまして、Aグループは「コミュニティや老人クラブなどの地縁組織の活動の参加者」 Bグループは「地区福祉委員会などが行っている地域福祉活動の参加者」 Cグループは「介護事業所におけるボランティアやシルバー人材センターなどの参加者」と分けて、協議していただきたいと考えておりますが、いかがでしょうか。

部会員

イメージとしては、何か新しい施策や事業をするにあたって人手が足りないからという理由ではなく、今すでに地域にあるものに対して人手が足りていないということで、どのように人材確保をするかという考え方でよろしいでしょうか。

部会長

人材育成というよりも、地域の中で参加したい気持ちがあるけれど参加できていない方を、どう呼び掛けて、地域の集いやサロンに参加してもらえるようにするかというところを

協議することが先決ではないか。そこから、指導者的な人材を増やしていくことを考えていくべきだと思っております。

まず、参加者をどう呼び掛けていけば増やすことができるのかを、みなさまそれぞれの立場からご意見をいただきたいと思っております。

部会員

先ほどの運営協議会で、(仮称)川西市社会資源管理システムのお話しをお聞きしました。

そういったシステムを稼働させるとなると、準備がすごく大変であろうかと思えます。

また、社会福祉協議会や地域包括支援センターといったところも大変であろうとお話しさせていただきましたので、今回もそのお話につながるかと思えます。

本日、お配りいただいている資料に記載している「第2層圏域ごとの課題をふまえた人材確保について」に挙げられている取組みですが、すでに私たちは取り組んでおります。そして、資料の下部、「第1層協議体における人材確保に向けた考え方について」に記載されております、「支援者やさらに責任の重い役員を増やしていくことは難しい」ということについてはもちろんそうでございます。

先に活動者を育成し、その中で「この人は良い人だな」という人を選別していく。もちろん、参加者の中から適当に選別してから人材確保をすることは難しいことだと認識しております。

参加者を増やすということは具体的に考えても良いかと思えますが、すでに地域では対策を考えて取り組んでおります。それよりも、データベースを一元化することで様々な問い合わせがあった際に相談できるよう、社会福祉協議会の地区担当者の人員を増やしていただきたいと思っております。いつ電話してもつながらず、取り合いになっているような状態です。

さきほど委員からもありましたように、この話は次へ次へと進んで行っているので、人員の体制整備も考えないといけないと言われておりましたが、私も同感でございます。早期実現ができるようお願いいたします。

部会長

本来の目的は生活支援体制整備ですので、地域住民の助けあい、みまもり、サロン、介護予防といった身近な手の届くところをどう展開していくのかを考えていくべきなのですが、まず今回はそのあたりの意見を含めて、グループワークをさせていただきたいと考えております。

各々が専門的に関わっておられる部門の意見をもう一度吸い上げさせていただいて、話し合いさせていただきたいと考えております。

部会員

グループワークに入る前に、共通認識を持つておきたいことがございますので、発言させていただきます。

お配りいただいている資料の「調査結果」の項目についてですが、介護保険事業計画のアンケートの結果ですので、対象は65歳以上の方となっております。また、参加者は65歳以上という制限はありません。

実は、第5期の地域福祉計画においても、地域活動に関するアンケートを実施しております。18以上の市民を対象としているので資料の数字とは異なりますが、実際に活動されている方は1割程度。実際に活動してみたいという方は3割程度いらっしゃい

ます。

介護保険のアンケートの聞き方ですが、「企画・運営として参加したいですか」という聞き方をされています。なかなか、「企画・運営」と書かれると、尻込みしてしまうのはわかる気がします。

そのような背景があつての資料の数字となっておりますことを、情報共有させていただきます。

事務局

失礼いたします。

先ほどアンケートについてご指摘がございましたので、アンケートの前提についてご説明させていただきたいと思ひます。

この介護予防・日常生活圏域ニーズ調査につきましては、第8期介護保険事業計画の策定にあつての基礎資料とするために実施したものです。

アンケートの聞き方について、地域福祉計画と異なるという点ですが、このアンケートの質問項目につきましては、全国統一の質問となっております、市町村独自での変更ができないものとなっておりますので、その点をご理解いただきたいと思います。

次に、対象者についてですが、要介護認定を受けていない65歳以上の高齢者を対象としております。

ただし、要介護認定を受けていないとしておりますので、要支援者と事業対象者の方は含まれる形となりますが、そういった方を4200名抽出いたしまして、アンケートを実施いたしました。

なお、回答は3638名からいただきまして、86.6%と高い回収率となっているアンケート結果でございます。

事務局からは以上でございます。

第1層 SC

それでは、グループワークについてご説明いたします。

今回、初めての試みですので、こちらでグループ分けをさせていただきました。

Aグループは、吉岡部会長、田口部会員、井口部会員、元山部会員、細海の5人です。

Bグループは、細見副部会長、清水部会員、岡部会員、西本部会員の4人です。

Cグループは、貞松部会員、吉川部会員、高田部会員、成徳部会員、片岡部会員の5人に分かれていただきます。

グループでの協議内容について、もう一度申しあげます。

Aグループは「コミュニティや老人クラブなどの地縁組織の活動の参加者」について。

Bグループは「地区福祉委員会などが行っている地域福祉活動の参加者」について。

Cグループは「介護事業所におけるボランティアやシルバー人材センターなどの参加者」についてでございます。

各グループでの協議を円滑に進めていただくためのファシリテート役については、Aグループは細海、Bグループは西本部会員、Cグループは貞松部会員にお願いいたします。

なお、各グループでご協議いただいた内容を情報共有した上で、参加者を増やしていくために第1層協議体である本部会で優先して取り組んでいくことを取りまとめたいと考えておりますので、各グループで発表役を決めておいてくださいますようお願いいたします。

各グループでテーマに沿って「参加者を増やしていくために、それぞれの団体に

において、既に取り組んでいることや、こういったことならできる、あるいはこんな取り組みが必要だ」といったことを話し合ってください。グループワークの時間は25分取りますので、その後、各グループからまとめた内容を発表していただきます。

なお、発表内容については、前のスクリーンに映しますので、箇条書きで4点ほどにまとめていただきますようお願いいたします。

それでは、机を移動しますので5分間休憩とさせていただきます。

(休憩)

第1層 SC

それでは再開します。グループに分かれてご協議の方よろしく願いいたします。

(グループワーク)

第1層 SC

それでは、Aグループから順番にご協議いただいた内容の発表をさせていただきます。Aグループは、「コミュニティや老人クラブなどの地縁組織の活動の参加者を増やすためには」について話し合いました。

まず1点目は、口コミやチラシは大事だが、まず人と人同士がつながっていないと、その口コミやチラシが生きてこないのではないかと。

2点目、「役員はしなくても良いので、まずは参加してみませんか」と声をかける。

始めは、役員はしなないと思っていた方が、参加することによって役員をしたくなるほど、やりがいを持って活動される方もいらっしゃるということなので、きっかけとして「役員はしなくても良いので、まずは参加してみませんか」といった声掛けが必要ではないかと。

3点目、いきいき百歳体操のグループを立ち上げている方をはじめ、サロンの運営をされている方、自治会、コミュニティ会長、福祉委員長、老人クラブ会長といった地域の方が集まって、参加者をどうやって増やすかを話しあう交流会を開催してみてもどうか。

各グループが意見交換し、話し合う場があってもいいのではないかとということです。

4点目、参加することは必ず介護予防、元気の秘訣になるということをメインにPRしてみてもどうか。具体策については、時間が来たので話し合えておりません。

以上です。

続いて、Bグループの発表をお願いいたします。

部会員

それでは、発表させていただきます。

まず、大前提として出た意見ですが、第1層協議体ですので、大きな視点からの取り組み、意見を出すべきだということが出ました。

また、やはり、要となる「場所」「人」「金」の体制整備をしていかないと、人は動かないし、進まない。参加者を増やすという話ができないのではないかとという意見が大前提ということで出ました。

続いて、具体的にどのような取り組みができるかということですが、まず、中・長期的なことを考えると、「福祉教育が大事だ」という意見が出ました。

今年のことですが、県立緑台高等学校の家庭科の授業に、福祉委員が講師役となって、生徒に対して福祉教育を行いました。

若い方の吸収はすごく、熱心に話を聞かれていたという事例があります。そのため、

先を見越して若い方に福祉教育をしていくことになる、教育委員会との連携も必要ではないか。

また、レフネック(生涯学習短期大学)等とも連携して啓発していくのも大事なのではないか。

あと、広報誌等で啓発していますが、福祉委員会の認知度が低いため、福祉委員会やサロンを知らない方が多いのが現状ですので、まずは知ってもらうことが大事だと思います。

そこで、事例として挙げますのが、副部会長の地区で、参加者にタオルを配る試みを行ったところ、通常の4倍の方が参加されたり、餅つき大会も参加者が多くなりました。

そういった場を活用して、ボランティアや地域活動を知ってもらう。本来ボランティア活動というのは楽しくて人のためになることだと、みなさん理解されているのですが、やはり体験していただかないとわかっていただけない。そのために、各地域でも間口を広げて体験する機会を増やしていく工夫を、考えているかと思いますが、大きな取組みとして、全市的な取組みができれば良いという意見が出ました。

以上です。

第1層 SC

ありがとうございました。

最後に、Cグループの発表をお願いします。

部会員

「介護事業所におけるボランティアやシルバー人材センターなどの参加者」ということで、ボランティアは大きく分けると2種類になると思います。

一つは、いわゆるやりがい、演奏会や発表会等ボランティアをする側も受ける側もWin-Winになるボランティア。

もう一つは対価が発生していても成立するボランティアとなります。

やりがいのボランティアに関して、現状は新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、受ける側をシャットダウンしている状態です。これは当分変わらないので、ここに対しての対策は考えたところで進まないと考えます。

有償ボランティアということで意見が出たのが、募集をしたいけれど、募集にコストがかかる。加えて参加している年齢層や魅力を伝えるのが難しいと言われていました。

応募や募集を周知しやすくするために、ハローワークと連動してみてもどうか。また、広報活動として、市の広報誌等を活用してやりがいや魅力を広めていくことが必要ではないか。働きやすさや、同年代の方が多く働いている地域といった情報も一緒に掲載できればよいといった意見が出ました。

以上です。

部会長

それでは、今一度、各グループから出た意見を見ていきたいと思えます。

「口コミやチラシは大事だが、人と人がつながらないといけないのではないか」「役員とかはしなくてもよいので、まずは参加してはどうですかと声をかける」とあります。

先ほど第1層SCが発言しておりましたが、参加はしたいけれども、いずれ役員をすることになるので躊躇するとありました。役員をしなくても良いので「まずは参加してみる」でありますとか、「一人では参加しにくいので、二人で声をかけて参加する」といった意見がAグループで出ました。それを聞いて、「なるほどなあ」と感じました。

また、参加することが介護予防につながるということを広報誌で、ボランティア活動が介護予防につながることをお子さんから言われるといったことがあるので、地域全体で「ボランティア＝介護予防」という意識づくりをする。元気な高齢者が高齢者を支えていくということが地域支援の一つだということも出ておりました。

続いてBグループです。

地区福祉委員会などが行っている地域福祉活動の参加者をどう増やしていくかということについて、川西市全域の視点をもつての体制整備ということで、まさしく、今話し合っている生活支援体制整備の基盤ではないか。その中には、場所・人・金がうまく回らないと、なかなか進んでいかないということや、福祉教育が大事というところがあります。

また、プレゼント付きの行事の開催という意見も出ました。

最後にCグループです。

介護事業所におけるボランティアやシルバー人材センターなどの参加者をどう増やしていくのかということですが、受ける側もやる側もWin-Winのボランティアの関係性が必要である。「有償ボランティアの募集」「ハローワークと連携」「介護職の魅力の広報」「どんな年齢層の人が参加しているかわかるように」といった意見が出ました。より具体的に詰めていくとイメージしやすく、参加しやすくなるのではないかとことです。

各グループで参加者を募るにはどうすればいいのかという意見を出していただきましたが、共通している内容や、特に大事ではないかという意見があれば、付け足していきたいと思えます。

どの項目が今大事なのかを全体の意見を聞いたうえで、皆さまからご意見を賜りたいと思えます。

それももとに、次回の議題として連動できればと考えております。

いかがでしょうか。

部会員

全て私たちが考えているようなことでしたが、Bグループで話が出たのが、第1層としての話し合いの場をもちたいということです。

色んな形でボランティアの活動者を増やす取り組みをしておりますが、高齢化が進む中で活動していただく方が増えないのが現状でございます。

ですが、努力することが大切だと思っておりますので、このような形でピックアップできたことで、まだまだできていないこともあると再認識しております。

市全体として、第1層としての話し合いの場を提供していただきたいと思っております。

部会長

第1層としての話し合いをしたいということでしょうか。

部会員

私たちは何をできるのか、市は何ができるのか、事業所は何ができるのか。せっかく様々な部門の方が集まっていますので、構築できたらと思っております。

部会長

第1層として各々の専門職や活動されている方がいらっしゃるの、そういった意見を吸い上げて、市も交えて話し合うということによろしいでしょうか。

部会員

申しわけありません。

話がぼやけてしまいましたが、第1層といえば市の方もいらっしゃいますので、私たちが

すべきこと等をお示ししていただける場があればもっとうまくいくのではないかと感じておりますので、市の力が必要ではないかと思えます。

部会長

ありがとうございました。
続いて、Cグループでどなたかご意見がある方はいらっしゃいますか。

部会員

次回からは、もう少しテーマを絞った方が良くと思います。
いくつか思っていたのが、人を集めるのはもちろんですが、その人が何をすることが見えないから集まりにくい。実際に集めても、何をすればいいかわからず時間だけが経って、参加者が活動についてよくわからないまま終わってしまうといったことが挙げられます。
例えば選択式で、A・B・Cについてボランティア募集を行うという形で何をしてもらうかを明確にし、そのA・B・Cの内容を妥当性があるかどうかを話し合う。
また、広報活動がすごく重要になると思います。各々で広報活動はされていると思うのですが、知らない人が圧倒的に多いから全体数が少ない。そのあたりの広報活動の仕方について話し合う必要があると思います。
例えば、できるかわかりませんが、市の広報誌に掲載するとかなり簡単に思いつくのですが、どのような広報活動をして、どのような内容を掲載すればいいのかと、テーマを絞った方が考えやすいのではないかと思います。

部会長

ありがとうございました。
Aグループはいかがでしょう。

部会員

さきほどのご意見にもありましたように、こういった話し合いの場を持つ際には、事前にテーマを決めていただいて、各自が意見を固めてきたうえで参加する形がよいと思います。
広報活動についても、大変ご苦労なさっているので、広報の仕方など、今まで出てきたご意見をまとめて、テーマごとに次回から話し合っていくということが大切だと思います。

部会長

Bグループは市を含めてと言われていましたが、この場に市、社会福祉協議会、生活支援体制整備部会が集まっております。
ボランティアとして何を求めているのか、ボランティアの意義についてご意見が出ていたと思います。
川西市としては、ボランティアポイント制度を以前考えておられて、現在も検討中ということです。それがうまくリンクすれば、見える化というか、やりがいにもつながると思うのですが、財政的、広報的なことから現在はあと一歩というところですので、今回は特に触れません。
ボランティアをどう広報すれば募ることができるのかという話は、すでに各々でされているかと思いますが、それを全体で、第1層としてボランティアを募るための広報活動として、具体的にどうすれば広報活動が効果的にできるのかというテーマに絞って、より具体的に考えていくという形にしていきたいと考えております。
広報活動のこういったテーマについては、事務局から事前に

<p>第1層 SC</p>	<p>お知らせしていただくようお願いしたいです。</p> <p>今回はいきなりでしたので、意見が出ない方もいらっしゃったと思いますので、次回は広報活動についてという大テーマをもとに、具体的なテーマを絞ってご意見を募りたいと思っておりますので、ご協力をお願いいたします。</p> <p>みなさま、ありがとうございました。次回は、どのような広報をすれば、より地域の活動に参加する方が増えるかを具体的に協議させていただきます。</p> <p>また、事前に資料などは送付してみなさまのご意見を頂戴するか、当日みなさまに各所属の活動をされている中ですでに取り組んでいること等を、お一人ずつからご意見をいただきたいと思います。</p> <p>それでは次に、次第の3、「その他」ということで、事務局から何かございますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>今後の本部会のスケジュールについてでございますが、日程等詳細につきましては、部会長と協議の上、改めてお知らせいたします。</p>
<p>部会長</p>	<p>それでは、本日の令和3年度川西市介護保険運営協議会「生活支援体制整備部会」(第10回第1層協議体兼地域ケア推進会議)は、以上をもちまして閉会といたします。</p> <p>部会員の皆さまには貴重なご意見をいただきありがとうございました。</p> <p>本日は、長時間にわたりありがとうございました。</p>